

「2019年浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部1年 佐藤 日向子

①学習成果

私たちは浙江大学の留学生として、一学期でカリキュラムを組まれた留学生用の中国語の授業に二週間参加したのですが、ほとんどの留学生は英語でコミュニケーションが取れますが、中には英語がわからず、中国語を通してしかコミュニケーションが取れない人もいて、私はそれに少し驚きました。私がそれまでに関わってきた留学生は皆英語で会話をするのができたので、自然と留学生は皆英語を共通語としているのだと思っていました。さらによく見てみると、西アジアの留学生と南米の留学生はスペイン語で会話していました。それで私は、日本では世界の人々と会話するためにまずは英語を勉強しますが、同じ目的のためにまずスペイン語を勉強する人も、中国語を勉強する人もいるのであって、英語さえ使えば大丈夫という考えは浅はかだったと感じました。

また、中国で留学生として生活し、日本とは違う生活様式がどのように営まれているのか、また日本ではありえないと思われる行動がどのような考え方の上で成り立っているのか、といったことを観察することができ、やはり観光だけでなく、実際にそこに暮らし、現地の学生や教授に学ぶことができる環境はとても良いと改めて感じ、更に留学をしていきたいという思いが強くなりました。(これを以て④進路への影響とさせていただきます)

②海外での経験

中国では現金はほとんど使えないと聞いていた(実際はかなり使えます)ので、私は父にもらった中国元を全て関西空港にあるポケットチェンジという機械でwechatpayに入れて行ったので、おそらく京大生では唯一wechatpayを現地で使うことができました。Wechatpayなどのスマホ決済は本当に楽でした。

また、現地では服は手洗いすると聞いていたので、どんな原始的な暮らしをするのかと思っていたら、ホテルのような宿舎に泊まり、洗濯機と乾燥機もあり、美味しくて安いご飯を食べ、快適に暮らすことができました。中国では本当に食費がかかりません。ただ全て油っぽいのので、それにうんざりしてくると大学のすぐそばに果物やさんがあって、これもまた安くたくさん果物を食べることができました。

交通手段もすごく安かったです。ほとんどの市バスは片道30円ほどでどこまででも行くことができます。中国では、車道と歩道の間にスクーター道があり、ビュンビュンスクーターが走っているのですが、構造上スクーターと歩行者が道を共有する所が多く、大変スリリングでした。

この留学に際して、社会主義がどのように機能しているのか見てみたいという思いがあったのですが、導入したいものを道徳的な行動として政府がプロモートしているのが普段の生活で最も見られたものでした。また、日本での中国への見方と、実際の中国の様子に違いを感じることも多々ありました。

大学内外でご飯に連れて行ってくれたり、高鉄のチケット購入や銀行での両替を手伝ってくれたり、現地での生活の多くの面で浙江大学のボランティアさんに助けられました。彼らが日本に来たり、私が中国に行くときは是非また会いたいと思うほど、たくさん関わることができました。

③プログラム内容

中国語の授業では全て中国語で行われ、教師と常に対話せねばならず、当てられることも少なくなかったのですが、今までに経験できなかったリスニングやスピーキングの機会が豊富にあり、その授業を受け続けられる他の留学生が羨ましく感じられました。授業以外には博物館を見学したり、ショーを見たり伝統文化に触れる時間がありました。自由な時間には、プログラム参加者だけでなく、他の留学生とご飯を食べたり、土日には上海や西湖を観光して楽しむこともできました。